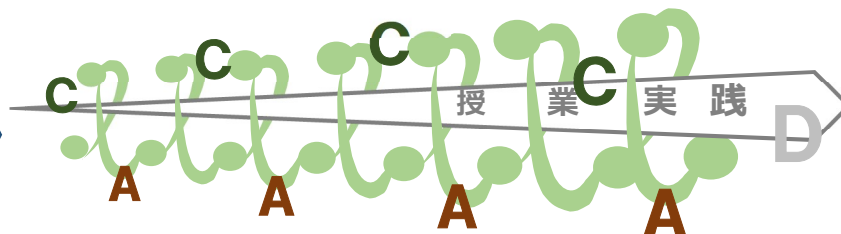


P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□ Check

・生活から問題を見いだしたか

「生活（社会）をみてみると」

□ Check

・実践的・体験的な活動を通して課題を追及していたか

「（実際に）やってみると、
みてみると」

□ Check

・課題の解決に向けて設計・計画したか

「どうすればよいだろうか」

□ Check

・他者に対話したり協働したりしていたか

「その視点では」

□ Check

・自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりしていたか

「（意図を）読み取ると」〈広まる〉
「例えば」〈深める〉

□ Check

・学習過程を振り返って実践を評価・改善していたか

「改善（工夫）するには」

□ Check

・見方・考え方を働かせて、解決に向けて取り組んだか

「〇〇の視点から考えると」

児童の
つぶやきや
様相から Check！



A 授業改善のポイント

☞生活から課題を見いだすためには

- ・日頃から自分の生活が家庭や地域社会と深くかかわっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組んでいく必要がある。

☞解決に向けて課題を設定するには

- ・具体物を用いた資料提示や憧れをもてるような示範を行い、児童の追究意欲を引き出すことができるようにするとよい。

☞実践的・体験的な活動を通して課題を追及するためには

- ・児童の発達の段階や学習のねらいを考慮して、**製作、制作、育成、調理等の実習や、観察・実験、見学、調査・研究**などそれぞれの特徴を生かした適切な学習活動を設定することで効果的な指導が可能になる。
- ・画一的な方法を提示するのではなく、様々な方法で追究できるように**教材や学習環境を充実**させたり、**複数の追究方法から選択**して取り組んだりできるように準備をしていくことが必要である。

☞他者に対話したり協働したりするためには

- ・知識及び技能の習得の場面では、作業や手順のポイントを示し、そのポイントに従ってアドバイスをするなど、他者との対話や協働ができるような仕組みを作っておくことよい。
- ・直接、他者との対話を伴わなくとも、設計や計画に込めた意図をよみとることも対話的な学びである。

☞自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりするためには

- ・対話活動の中で、自らの考えを「広げる」とは「入力（聞く、読む）」、「深める」とは「出力（話す、書く）」という視点で取り組むとよい。

☞学習過程を振り返って評価・改善するためには

- ・これまでの学習過程の中で常に評価・修正を行い、元に戻ったり進んだりを繰り返すように指導していく必要がある。

☞見方・考え方を働かせて課題を解決するためには

- ・課題解決に向けて収集した情報を「社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性」「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から**技術を最適化したり、よりよい生活を営むために工夫したりする**ように促す必要がある。

☞自己の変容を振り返るためには

- ・学習したことを「社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性」「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から評価改善することができるように、まとめの視点を明らかにして提示する必要がある。

※枠が重点

ここに示したものは、あくまでも一例です。
周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。

